

講座・戦後教育実践書を読む

◆講座への誘い

本屋で教育の棚を見わたすと、学級づくりや授業づくりに役立つ書籍は所狭しと並んでいる。一方、その姿を消しつつあるのが教育実践記録の書籍だ。

「教育実践」という言葉は、教育を行う教師が、教育と研究の主体でなければいけないという思いから、使われ始めたという。戦後も、多くの実践書が出た。しかし、すでにその多くは読まれなくなっている。記録には、実践が行われたその時代背景はもちろん、目の前の子どもたちと向き合い、実践に取り組み教師の思いと姿が刻まれている。

改めて、戦後の教育実践の記録を読むことを通して、私たちの今と、教育と子どもを語り、教師の仕事について考えあいたいと思います。

◆参加申込みについて

- ・ 定員は、三〇名程度です。
- ・ 参加希望者は、研究センターまでご連絡ください。
- ・ 参加費は、資料代として三〇〇円いただきます。
- ・ 会場は、みやぎ教育文化研究センター
(フオレスト仙台ビル五階)

第1回 8月4日(木) 13時30分～16時30分

無着成恭著『山びこ学校』

話題提供 田中武雄さん
(共栄大学教授)

『山びこ学校』は、山形県山元村(現・上山市)の中学校教師、無着成恭(むちやくせいきょう)が、教え子の中学生たちの生活記録をまとめ、一九五一年(昭和二六年)に青銅社から刊行したもの。正式名称は、『山びこ学校―山形県山元村中学校生徒の生活記録』である。二〇〇八年一月現在、岩波書店(岩波文庫)から刊行。舞台となった上山市立山元中学校は、二〇〇九年三月廃校となった。

第2回 (10月8日・土曜)

国分二郎著『新しい綴方教室』

話題提供・春日辰夫(研究センター)

第3回 (12月3日・土曜)

土田茂範著『村の一年生』

話題提供・渡部やす子さん(元小学教師)

第4回 (2月4日・土曜)

斎藤喜博著『学校づくりの記』

話題提供・皆川秀雄さん(元中学教師)

第5回 (3月31日・土曜)

小西健二郎著『学級革命』

話題提供・佐々原芳夫さん(元中学教師)

